

IAQGブリュッセル会議について

1. はじめに

IAQGブリュッセル会議が、2014年4月3日～10日に開催された。IAQG会議は、年2回（春、秋）開催され、昨年10月開催のモントリオール会議に引き続き今回は通算35回目にあたる。以下に今回の会議について紹介する。

2. 会議概要

今回の会議では、次期9100規格検討の本格化に伴い、当該規格並びにその関連規格に関する審議が主要議題となった。また、認証制度関連では、検討中の9104-3規格（審査員資格基準及び研修コース基準）改定版等の審議が主要議題となった。

その他、製品及びサプライチェーン改善、要員能力及び各分野の関係強化等の分科会（詳細後述）が行われた。

特に我が国は9101規格サブチームのIAQG

リーダーを務めるなど、規格の検討に積極的に参画し、また、JAQG独自活動である「強固な品質マネジメントシステムの構築」について報告するなど、我が国の意見をIAQGに反映することが出来たと考える。

3. 各論

以下に今回の会議における総会（旧評議会）、並びに主要な分科会等の内容を紹介する。

(1) 総会（General Assembly）

総会では、執行委員会報告、セクターレポート、会計報告、戦略検討ワーキンググループ会議報告、各分科会活動の進捗報告などが行われた。

アジア太平洋セクターレポートでは、アジア各国の活動状況の他、「強固な品質マネジメントシステムの構築」の最新検討状況が報



総会の様子（全体）

告された。

総会での議決事項は以下の3件であり、全て承認された。

議決事項

- IAQGモントリオール会議議事録
- 2013年IAQG決算
- IAQG定款、運営規則、運営手順の正式発行

また、今回はベルギーの航空宇宙産学クラスター（Skywin）について紹介があった。Skywinは、航空関連企業65社、宇宙関連企業27社と25の大学が参加しており、ベルギーの航空宇宙産業界のキーとなる組織である。2007-2013年実績で、47の研究開発等のプロジェクトが実施されているとのことであり（プロジェクト予算の約7割が公的補助金）、現在の活動戦略などについての紹介があった。

(2) 執行委員会（Executive Committee）

執行委員会は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務責任者等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議し、その結果が必要に応じ総会に上程される。今回の執行委員会会議では、IAQGの財務状況、法人化したIAQG運営方針/要領、IAQGメンバーシップ等について協議された。IAQGの財務状況については2013年の収支結果が報告され総会への上程が承認され、IAQG運営については、会長からの権限移譲などについて協議された他、IAQGと外部との各種契約手続きなどが協議された。

(3) 戦略検討ワーキンググループ

(Strategy Working Group)

戦略検討ワーキンググループは、各セクターリーダー／代表者、分科会のリーダー等から構成され、下位の組織の活動を統括するとともに、IAQGの上位戦略を検討しその成果を総会に上程する機能を持っている。



総会の様子（アジア太平洋セクターレポート）

今回の会議では、今年1月の対面会議から実施している各分科会等の本年度の活動状況をレビューし、今後の戦略、活動を続ける上での課題・懸案事項について議論した。（各分科会等の活動状況については個々の項目を参照されたい）その他、IAQG内のプロセスを改善すべく今年の重点活動項目として設定した「IAQGメンバー会社からの活動参画に対するコミットメント」及び「IAQGのリーニ化」について活動状況が確認され、今年7月の対面会議に向け、引き続き協議されることとなった。

(4) 規格要求分科会 (Requirements)

本分科会では、9100規格（国内ではJIS Q 9100規格）をはじめ、製品とプロセスの整合性・完全性を改善していくための品質要求事項やガイダンス文書を作成・維持している。今回の会議では、後述する9100規格及び9101規格の改正作業の状況が報告された他、IAQGが作成・維持するすべての規格について、改

正検討作業状況が報告された。9100規格の改正作業の本格化をうけて、9100規格を基にした規格（9100シリーズ規格）についても9100規格と併せて改正する必要があるため、今回9110規格と9115規格について対面会議が開催されたことが報告された。JAQGからは、3月に開催されたアジア太平洋セクター（APAQG）会議にて9100規格の改正に関する会議を行ったこと、国内では、毎月規格WGを開催し、SJAC 9068「強固なQMSを構築するためのJIS Q 9100補足事項」及びSJAC 9101のE改正版を発行したこと、並びに9102規格のB改正版の発行準備を進めていること等を報告した。

主な規格改正作業の実施状況を以下に紹介する。

① 9100

ISO 9001次期改正に合わせて改正検討されている9100規格について、次期改正主要6項目



総会の様子（投票メンバー席）

に対するサブチーム検討結果と提案内容に対するレビュー、MCRT (Master Comments Review Template : 次期改正に係るコメント登録様式) に登録されたコメント最終レビュー、ISO 9001 DIS (Draft International Standard) への対応を含む次期改正原案作成活動等に対する協議のため、2日間の会議が開催された。サブチーム検討結果としては、検討完了した4項目 (①安全/ヒューマンファクターズ、②リスク/予防処置、③製品実現計画、④引渡し後の支援) についてレビューし、今後の反映方針について協議した。協議の結果、①は、安全マネジメントを個別項目として設置する提案があったが、個別項目とはせず、引き続き安全に係わる要求事項を9100規格の関連項目へ追加検討することとなった。②は、周知のとおりISO 9001次期改正でもリスクに関する定義と要求事項が追加されるため、その整合について協議した。③は、現在IAQGの規格化が検討されている、APQP (Advanced Product Quality Planning : 先行製品品質計画) / PPAP (Production Parts Approval Process : 生産部品承認手続き) に関する記述とFAI (First Article Inspection : 初回製品検査) との更なる関連性明確化の追加、④は、ISO 9001次期改正で追加予定の「引渡し後の活動」の項目との整合を検討した。今後の9100次期改正活動としては、各セクター代表で構成される9100改正原案作成サブチームが設置され、ISO 9001 DISの発行後、今回及び前回までの会議結果を反映した9100チーム検討作業用ドラフトを作成し、各セクターによるレビュー結果を踏まえ、次回IAQG 9100チーム会議 (2014年10月) で改正内容の骨子を固める予定である。

② 9101

9101規格は、9100シリーズ規格に対する審査要求事項を規定する規格で、各セクター規格発行状況の確認、展開支援文書やIAQGウェブサイトに掲載予定の電子様式のレビュー及び次期改正等についての検討のため、リーダーのMHI 河本正博氏により進行され2日間の対面会議が開催された。各セクターの規格発行状況としては、AAQGにてAS9101E、EAQGにてprEN9101:2014が発行された。展開支援文書であるPress Release、FAQ及び改正概要、並びに電子様式に対するレビューを実施し、今後更なる修正と調整を行いIAQGウェブサイトへ掲載される予定である。また、ISO/IEC 17021-1改正動向と9100シリーズ規格の次期改正動向を踏まえ、次期改正への取り組みについて協議した。

③ 9117

9117規格は、購買製品の検証を供給者へ委譲する場合の組織、委譲を受ける供給者及び検証作業を行う要員に関する規格で、規格案のIAQG Ballot (投票) 準備状況の確認と、SCMH (Supply Chain Management Handbook : サプライヤのためのガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたもの) に掲載するガイダンス文書案の検討を実施するため、3日間の対面会議が開催された。SCMHのガイダンス文書については、現行のSCMHに掲載中の文書の関連項目を、9117規格案の規定事項に合わせて見直すと共に、補足説明等を追加して、文書案を作成した。今後、再度全体を見直した後、SCMHの現行文書を改訂して掲載される予定である。また、規格案については、IAQG規格校閲担当者との調整を終えて、まもなくIAQG Ballotが開始される。

④ 9138

9138規格は、抜取検査などで実施される抜取検査方式とその手順を規定するため、2012年のIAQG名古屋会議で正式に開発することが承認された新規開発規格で、規格案及び規格利用者を支援するガイダンス文書に関する協議を実施するため、4日間の対面会議が開催された。今回の会議では、これまでに作成した規格案に対するIAQG規格校閲者のレビュー結果を確認し、規格案の内容を見直した。また、規格の利用者を支援するため、規格の作成と並行してSCMHに掲載するガイダンス文書の作成を進めており、9138規格案に合わせたガイダンス文書の記述内容を検討した。

⑤ 9162

9162規格は、工程作業による製品の自主確認プログラムに関する規格で、10月のモントリオール会議で改正作業の開始が決定されたことを受けて、作業計画の確認と改正案に関する協議を実施するため、対面会議が開催された。今回の会議では、改正作業のスケジュールについて確認したほか、JAQGから提出したものを含む現行規格内容の変更コメントに対して、3月にアメリカセクターで検討された処置案について報告された。今後コメント処置案を含む改正案全体を再度レビューすることとなり、JAQGでも内容を検討し、コメントを提出する予定である。

(5) 製品及びサプライチェーン改善分科会
(Product and Supply Chain Improvement)

本分科会では、SCMHを作成・維持することにより、サプライヤが顧客の要求／期待や組織の目標を満たすガイダンスや最適手法を提供している。今回の会議では、2014年度戦

略的目標に関連して、SCMHの構成見直し状況の確認、作成中のSCMH2文書（①Counterfeit and Suspected Unapproved（模倣品・未承認部品防止）会議後4月に完成、②Process Mapping（プロセスマッピング）1月完成）の進捗状況確認を実施した他、認知度向上のためのSCMH Webinar（＝オンラインセミナー）の昨年の試行結果を踏まえた今後の実施計画の協議、SCMHユーザ登録データ分析に基づくSCMH活用状況の確認、ユーザ登録者に対しての情報提供及び情報収集に関する協議を実施した。また、①Certificate of Conformance（適合性証明書）、②Delegated Product Release Verification（製品リリースにおける検証活動の委譲）、③Capacity Management, Ordering & Logistics（能力管理、注文、物流）、④Human Factors for New Manufacturing（新規製造におけるヒューマンファクター）、⑤Statistical Product Acceptance（統計的な製品合否判定に関わる要求事項）の5点について、今後、新アイテムとして作成していくこととなった。既に完成しているSCMH資料についてはIAQGウェブ（<http://www.sae.org/iaqg/>）にて一般公開中である。

(6) 要員能力分科会（People Capability）

本分科会では、要員能力に関わる活動として、「力量管理」と「ヒューマンファクター」の2分野を対象にしている。

① 力量管理

JIS Q 9100の6.2項「人的資源」では、「組織は、要員に必要な力量を明確にする。」とされているが、その基準までは示されておらず、各組織がそれぞれに必要な力量を独自に定義している。本分科会では、ガイダンス資料として、全世界共通の“BoK”（Body of Knowledge、知識体系）を開発し、IAQG

ウェブサイトへの公開を計画している。今回の会議では、BoK作成に関する規定類を完成させた。BoK本体については、今年度中に、開発されたBoK案を本分科会にてレビューしていく予定である。

② ヒューマンファクター

本分科会では、ヒューマンファクター（人的要因）に関する背景、主要手法、航空当局要求などを含んだガイダンス文書を作成し、IAQGウェブサイトへの公開を計画している。ガイダンス文書は完成しており、間もなくIAQGウェブサイトに掲載される見込みである。その後JAQGにおいて翻訳を行い、国内に情報展開する予定である。

(8) パフォーマンス分科会(Performance Team)

本分科会はIAQG改善戦略分科会の一つであり、航空・宇宙、防衛産業業界のパフォーマンスとしてIAQG会員会社各サプライヤの「納期遵守率」、「流出不適合発生率」を指標として評価することを目的として活動を開始し、2010年よりパイロットケースとしてIAQG会員会社有志の協力でデータの収集・分析を実施している。

今回の会議では2013年の報告ならびに2010年と2012年データとの比較について報告があった。2013年データ収集では現在までに16社から205あまりのサプライヤデータが提供された。データの傾向としては「納期遵守率」は改善傾向であるが、「流出不適合発生率」は改善が図られているようには見えない。但し、業界全体のトレンドを正確に見るためには1,000以上のデータが必要であり、今後さらにIAQG参加各社に呼びかけてデータ収集を行い再度、パフォーマンス評価を実施する予定である。

(9) 防衛当局との関係強化分科会

(Defense Relationship)

IAQGは防衛当局との関係構築を通じて、IAQGが制定している9100関連規格およびその第三者認証制度を防衛当局に認知・受容して貰うこと等を目標としており、本分科会が防衛当局（欧州の防衛当局（NATO）や米国防務省等）と協働可能な具体的なテーマについて協議を行っている。

今後、米国での適用を進めるために、次回10月に米国で実施されるIAQG会議に国防務省関係者を招き、9100関連規格およびその第三者認証制度を説明し理解を得る計画について討議した。

ヨーロッパ及び日本では既に、IAQGが制定している9100関連規格およびその第三者認証制度の適用が開始されており、今後、米国での適用が進むことが期待されている。

(10) MRO（整備・修理・オーバーホール）関係強化分科会

MROは、9100規格をベースとする9110規格要求を整備組織に適用し、航空当局などにその認証制度を認知・容認していただくことを目標に活動を行っている。今回の分科会では、主に9110規格次期改正の方針について協議され、9110改正チームの活動状況が確認された。また、審査員のトレーニング方法についても方向性が確認され、ウェブベースでの実施などが提案された。なお、今回はEASA関係者をゲストとして招き情報共有など行うこととなったが、9110規格をベストプラクティスとして使用したいなど、適用について前向きな意見をいただいた。

(11) 国際スペースフォーラム

(International Space Forum)

スペースフォーラムは、9100規格の宇宙品

質要求への取り込みと業界への展開を目的とし、2003年より発足し、各国の主要宇宙機メーカーに加え、ステークホルダーである各宇宙機関（NASA、ESA、JAXA）もメンバーとして積極的に対応しており、情報交換の場に留まらず業界側からの要望として規格の変更提案等を活発に行っている。

今回のブリュッセル会議では、現在のスペースフォーラム活動状況の確認（9100改正、9104-3他）、今後のIAQG活動への参加計画確認、レッスズラン／ベストプラクティス紹介としてECSS標準紹介、民間宇宙旅行標準への取り組み紹介、ESA-JAXA-NASA三局会議紹介があり、今後も宇宙分野への9100を展開する活動の継続が確認された。

JAQGスペースフォーラムとしては、今後もセクターを代表してIAQG活動へ参画し、国内業界へのフィードバック及びさらなる活動活性化を推進していく予定である。

(12) 国際航空宇宙認証制度管理チーム

(Other Party Management Team (OPMT))

OPMTは、航空宇宙品質マネジメントシステムの認証制度の運用に必要な規格の作成、認証制度の運用管理や（各セクター間の）相互監視等を行っており、認証制度運用において重要な役割を担っている。今回の主要議題としては、日本国内でも発行された9101規格改定版（審査要求事項：SJAC 9101E）の適用に伴う、既存審査員向けの研修モジュール開発や基礎研修コースへの反映の他、検討中の9104-3規格（審査員資格基準及び研修コース基準）改定版について議論された。特に9101規格E改定版に関する既存審査員向け研修については8カ国語に翻訳されたものが提供さ

れる予定であるが、公開前にその翻訳内容の検証に業界も参加することになり、JRMCMも和訳版の確認作業を行うこととなった。また、9104-3規格改定版については検討チームとしてのドラフトがまとまりつつあり、まもなくセクター投票が開始される予定である。一方、9104-3で規定されている新たな審査員の力量評価プロセスは、やっとチームリーダーが決まったことを受けて開発作業が開始される見込みであり、平成26年度の重要な活動の一つになることが予想されるため、日本としても開発段階から積極的に参加していく予定である。また、本年、アジア太平洋セクターに対して行われる、他セクターによるオーバーサイトの計画についても調整が行われ、8月に日本で開催されることになった。JRMCMとしても関係機関の協力を得て、受審対応準備を行う予定である。

4. おわりに

今回の会議では次期9100規格やその関連規格、並びに認証制度に関連した規格の審議が主要議題となった。

本件はIAQGの根幹をなす重要案件であり、引き続きJAQGとして積極的に関与する所存である。

また、JAQGの独自活動である「強固な品質マネジメントシステムの構築」については、国内での展開成果をベースにAPAQGに認知された活動としてIAQGに紹介するなど、当初の目的をほぼ達成しつつある。

今後も我が国の意見をIAQGに反映させるべく、JAQG活動を継続する所存であるので、関係各位からのご指導・ご鞭撻をお願いしたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕